

災害対策

長野県長野工業高等学校 情報工学科

小林暖和 小林心春

テーマ設定の理由

近年、自然災害の被害が多くなっており
防災・減災の意識が高まっているため。

SDGs

11 13 17



現状

令和元年台風19号災害

- ▶断水5097世帯（厚生労働省）
- ▶床上、床下浸水8000戸（信濃毎日新聞）
- ▶被害総額2714億円（信濃毎日新聞）
- ▶立ち退き避難3000人（NHK）

（出典：信濃毎日新聞）



問題点

- a. 災害後の生活の確保が不十分
- b. 災害や土地のリスク情報が不十分かつ、伝わりにくい
- c. 多様な主体が連携して災害リスクに備える体制が不十分
- d. 情報が分かりづらく住民に伝わらない
- e. 防災・減災のための技術活用ができていない

(バーチャル防災訓練など)

(出典：朝日新聞デジタル)



今後の課題

- ▶ 市民、企業と連携した防災・減災対策の推進
- ▶ 身近な危険の認識（ハザードマップ）
- ▶ 災害情報の入手
- ▶ 事前の避難所の検討
- ▶ 住民の呼びかけ

SDGs実現に向けて

～10代からの提言～

- ▶自治体がハザードマップを改良し住民が手に取りやすく、見やすくしてほしい。
- ▶素早い情報発信で住民が災害と向き合い減災・防災ができるようにしてほしい。

考察・感想

調べた結果、多くの人々が被害を受けていることが分かった。もっと対策を強化して被害を小さくする必要があると感じた。